

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二二二七二〇七

「確認書」ロケットで当局自ら列車を止めなせ

国鉄当局は、八月十一日、動労千葉の第二波闘争の停職・減給者に対し処分通告を強行してきた。当局は、三月十四日、動労千葉の不当処分紛争・「六一・三ダイ改」阻止、第二波闘争の「二・一五ストライキ」に対し解雇八名、停職三名、減給二三名、計二七二名にもおよぶ、第一波闘争を倍する超反動的な大量不当処分を強行してきた。この不当処分が「確認書」強要などただただ処分対象者を拡大し、動労千葉の組織解体と「分割・民営化」強行へむけた見せしめ攻撃としてかけられたものであり断じて許すことはできない。

前代未聞の「確認書」

二・一五ストライキは、千葉局業務の東京三局への業務移管について、当局が何んら合理的根拠を示さなければかりか、団交継続中にもかかわらず、線見・訓練などの事前作業を強行し、あげくに団交の一方的打ち切りをもって業務移管を強行せんとしたことに對する、やむにやまれぬ闘いであった。

さらに、この大量不当処分が、スト拠点でなかった銚子・勝浦・館山の三支部に對して、乗務の意志表示をした乗務員に前代未聞のスト破りの「確認書」を強要し、それを拒否したことを理由に拠点支部を上回る重処分を強行してきた。

問答無用の処分発令

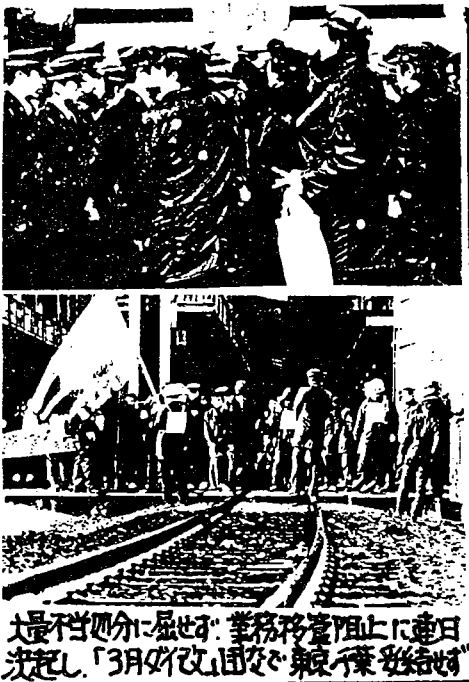
そして、「確認書」なるものへの署名・捺印を強要し、これが拒否されるや、「業務の意思なし」と勝手に断定して乗務させないという事実上の不法ロックアウトを行うというなりふりかまわぬスト圧殺に全力をあげてきた。
当局自ら列車を止めたりえで、その責任を動労千葉にかぶせ、賃金カット、大量不当処分という暴挙を行ってきたのである。

手段を選ばないこのやり方は、中曽根の国鉄「分割・民営化」攻撃の本質そのものであり、いかに理不尽なものであるかはこの間の弁明弁護の中で如実に暴きだされた。そのうえで当局は問答無用の処分発令を行ってきたのである。

国鉄労働者の決起を恐れている

第二波闘争は、一カ月をこえる長期間の中で、二・一五ストを中心に闘われた。国労の「大胆な妥協」路線、動労革マルの自民党の犬として延命を図らんとする情勢下で動労千葉の闘いに対する国鉄労働者の期待は一層高まっている。政府・国鉄当局は国鉄労働者の決起を恐れているのだ。

中曽根・杉浦体制の報復攻撃に屈せず組織の団結を堅持・強化し「十一月ダイ改」阻止へ万全な組織体制を築いていかねばならない。



日連連に業務移管阻止に決起し、3月4日、国鉄千葉局を襲撃した。大量不当処分を強要し、賃金カット、大量不当処分という暴挙を行ってきたのである。

国鉄「分割・民営化」阻止 / 三里塚二期着工粉碎 / 第二波スト 不当処分紛争 断行

あまりの理不尽さゆえに『問答無用』の